

(別添1)

【豊中市】

端末整備・更新計画

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 児童生徒数	32,045	31,838	31,528	31,045	30,382
② 予備機を含む 整備上限台数	36,851	36,613	33,257	0	0
③ 整備台数 (予備機除く)	0	2,609	28,919	0	0
④ ③のうち 基金事業によるもの	0	2,609	28,919	0	0
⑤ 累積更新率	0%	8%	100%	100%	100%
⑥ 予備機整備台数	0	391	4337	0	0
⑦ ⑥のうち 基金事業によるもの	0	391	4337	0	0
⑧ 予備機整備率	0%	15%	15%	0%	0%

(端末の整備・更新計画の考え方)

○端末整備・更新の計画について

- ・令和7年度…2,609台を先行更新。更新後の現行端末は、次年度の更新までの期間、児童生徒及び指導者用端末の故障時の修理中の代替機、また児童生徒や教職員数の増加により端末に不足が生じた際の追加配備機などで活用。
- ・令和8年度…28,919台を更新。

(更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について)

○対象台数：31,528台

○処分方法

- ・小型家電リサイクル法の認定事業者にて再使用・再資源化を委託：31,528台

○端末のデータの消去方法

- ・処分事業者へ委託する

○スケジュール(予定)

- ・令和7年9月 新規購入端末(令和7年度更新分)の使用開始
- ・令和8年9月 新規購入端末(令和8年度更新分)の使用開始
- ・令和8年11月 処分事業者選定
- ・令和9年1月 使用済端末の事業者への引き渡し

(別添2)

【豊中市】

ネットワーク整備計画

1. 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合 (%)

- ・必要なネットワーク速度が確保できている学校数：55校
- ・総学校数に占める割合：100%

2. 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

(1) ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

- ・更新後も100%を維持するため、定期的な聞き取り調査等による課題把握に努める。

(2) ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

- ・更新後も100%を維持するため、課題を把握した場合は、ネットワーク保守業者との連携により速やかに改善を図る。

(別添3)

## 【豊中市】

### 校務DX計画

「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の項目と結果を踏まえ、教育委員会では、以下をはじめとした校務の見直しとDX化に取り組んでいるところであり、その効果を検証しながら、引き続き取組みを進めていく。

#### ●保護者と学校の連絡について

- ・児童生徒の欠席連絡等の保護者と学校の間での連絡や、学校からの情報発信について、保護者と学校の連絡システムの活用により、電話や紙媒体による連絡の削減を図っている。

#### ●教育委員会と学校、学校と学校間、学校内の情報伝達・共有について

- ・校務支援システムの個人連絡や連絡掲示板、書庫等のグループウェア機能の活用により、教育委員会と学校、学校と学校間の情報伝達・共有について、紙媒体による情報伝達の削減を図っている。また、それにあわせ、不必要なFAX・押印、紙文書による保管等の制度・慣行の見直しも行っている。
- ・学校内での情報共有についても、同機能の活用により、教職員間での情報伝達を円滑に行うとともに、会議の精選による業務負担の軽減も図っている。

#### ●公簿の電子化について

- ・指導要録や出席簿、健康診断票等の公簿を校務支援システム上で作成し、電子媒体で保管する運用により、作成に係る業務時間の削減や、紙媒体保管による紛失や誤廃棄等のリスクの軽減を図っている。
- ・また、市内学校間での転出入や進学の際に、同システム上で、公簿や名簿情報の電子データを引き継ぐことで、紙媒体でのやり取りにより懸念される個人情報の紛失を未然防止するとともに、名簿情報等の不必要な手入力作業の削減を図っている。

#### ●汎用的なクラウドツールの活用について

- ・全ての教職員へMicrosoftアカウントを付与することで、主にMicrosoft Teamsの活用により、教職員間の円滑なコミュニケーションや、教材等のデータでの共有・共同編集による業務の効率化を図っている。また、Microsoft Formsを児童生徒や保護者等へのアンケートに活用することで、アンケートの紙媒体での配布や回収、集計作業等の業務に係る時間の削減を図っている。

●採点支援システムの活用について

- ・中学校へ導入した採点支援システムの活用により、定期テスト等の採点に係る業務時間の削減を図っている。

●勤怠管理システムの導入について

- ・勤怠管理システムの活用により、教職員の勤怠に係る申請等のペーパーレス化による、セキュリティ強化や事務手続きの効率化を図っている。

●教員研修のオンデマンド視聴について

- ・可能な限り研修動画をアーカイブ化することにより、時間や場所を選ばずに視聴が可能となり、教員が自身の働き方に合わせて研修受講できるよう図っている。

上記等の取組みによる校務DXをさらに進めるために、今後、以下について、検討・取組みを進める。

- ・ロケーションフリーで校務系・学習系システムへ接続し、教職員一人ひとりに合った柔軟かつ安全な働き方が可能となるようなICT基盤の再整備。
- ・パブリッククラウド上で運用できる校務支援システムへの移行。
- ・それらに対応するための教育情報セキュリティポリシーの改訂。
- ・個々の学習の理解度やつまずき、生活状況をよりきめ細やかに把握することで、子どもたち一人一人の状況に応じた指導や支援の充実を図るための、校務支援システムやAI型学習ドリルなどの教育データを一元化した教育データベースの構築。

(別添4)

## 【豊中市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、令和2年度に策定した『豊中市立小・中学校におけるICTを活用した「学び」の基本方針』において、学習指導要領に示されている資質・能力の育成のために、ICTの効果的な活用により「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進めることや、ICTを積極的に活用して主体的に考え、他者と新たな課題の解決などに取り組むために必要な情報活用能力の育成を図ること、子どもたちの多様性に対応するとともに、それぞれの特性を最大限に伸ばせるよう、個別最適化された学習を進めること等を基本項目として設定しており、それらの取組みにより、子どもたち一人ひとりを主体的な学習者へと育成することをめざしている。

#### 2. GIGA第1期の総括

GIGA第1期では、以下のとおり端末等の配備や各種ソフト等の導入、ネットワークの整備を進めるとともに、方針を策定して取組みを進めてきた。

令和2年度	・「豊中市立小・中学校におけるICTを活用した「学び」の基本方針」策定 ・市内児童生徒全員にLTEモデルのタブレット端末を配備 ・各種ソフト等（デジタルドリル、授業支援ソフト、クラウドツール）導入
令和5年度	・普通教室のアクセスポイントの上位機種への交換、大規模校のネットワーク増強 ・「豊中市立学校におけるオンライン授業等実施要領」策定 ・「豊中市版SAMRモデル」作成
令和6年度	・AI型学習ドリルの導入 ・「個別最適な学びと協働的な学びリーフレット」作成

#### 【成果】

- ・教職員及び児童生徒の1人1台端末の活用率が大きく向上し、ICTを学びに活用することが日常化した。また、クラウド環境を活用して、子どもたちがそれぞれの調べた

ことや考えたことを共有したり、共同編集をしたりしながら、学びを深める様子も見られるようになってきた。

- ・校外学習や宿泊行事等の学校外での学習や家庭学習においても、本市で独自に整備しているLTE環境をいかして、端末を活用した取組みが広がった。
- ・不登校や学級休業時等の児童生徒が登校できない場合においても、学習保障を行うことができた。

#### 【課題】

- ・端末の活用率が向上した一方で、端末を活用することが目的化している事例も見られ、ICT機器を効果的に活用することで、子どもたちの主体的、対話的で深い学びにつながるような活用がどの学校でも見られることをめざす必要がある。
- ・また、学校間や教職員間で活用状況に格差が見られ、組織的な授業改善の推進の中で、ICTがどのように有効に活用できるかを引き続き研究することも求められる。

### 3. 1人1台端末の利活用方策

GIGA第2期では、端末の整備・更新により引き続き、児童生徒1人1台端末環境を維持するとともに、前項1・2を踏まえ、以下の観点から1人1台端末の利活用に係る取り組みを進める。

- ・子どもたちの資質・能力の確実な育成に向けた主体的、対話的で深い学び、授業支援ソフトや汎用的クラウドツール等の活用による情報共有や共同編集などの他者と協働した学びや、他者参照をしながら一人ひとりが自分に合った学びを選択しながら深められるような学びによる「子ども主体の学び」の実現のため、豊中市版SAMRモデル等の資料も活用しながら授業イメージを全ての教員と共有したり、校内研究推進事業等の研究指定校の取組みを重点支援したりする等の取組みにより、ICTの効果的な活用による授業改善を進める。
- ・大阪府作成の情報活用能力ステップシートも活用しながら、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力の、子どもたちの発達段階に応じた系統的な育成を図る。
- ・AI型学習ドリルの活用により、それぞれの学習状況に応じた学習課題の提供による基本的な知識や技能の確実な習得や、子どもたち一人ひとりの主体的な学びに繋げる。
- ・不登校の児童生徒へのオンライン授業等や、日本語指導の必要な児童生徒や障がいのある児童生徒などの個々の状況に応じたきめ細やかな支援のため、1人1台端末を効果的に活用し、個に応じた学び方や学習機会の提供を行う。

- ・引き続きICT支援員を配置し、校務での活用支援やICT環境整備の支援だけでなく、より授業での活用に焦点化した支援を行うことで、子どもたちや教員が安心してICT活用を進められる環境を維持する。

項目	K P I	目標値
1人1台端末の積極的活用	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100% (R7)
個別最適・協働的な学びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端末を週3回以上活用させている学校の率	100% (R7)
	児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面において1人1台端末を週3回以上活用させている学校の率	80% (R8)
	教職員と児童生徒がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上活用させている学校の率	80% (R8)
	児童生徒同士がやりとりする場面において1人1台端末を週3回以上活用させている学校の率	80% (R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回以上活用させている学校の率	80% (R8)
学びの保障	希望する児童生徒への、端末を活用した教育相談を実施している学校の率	100% (R8)